

## 2014年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを生かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施するため、接続する学校の教職員に、専門的な視点からの意見を聞くことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、中学部の学校評価が関西学院評価推進委員会において承認されましたので、ホームページ上で公表いたします。

2014年度は、昨年に引き続き「教育課程・学習指導」「生徒指導」「保健管理」「保護者との連携」「キリスト教主義教育の実践」「特色ある教育の実践」を評価項目に設定し、評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からの意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、生徒 98.6 % (705/715)、保護者 68.3 % (488/715)、教員 86.1 % (31/36)となっております。

今年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果も参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた具体的方策を示し、自己点検・評価としました。また、初等部、高等部、大学の評価者に、ありのままの中学部の教育を知っていただき、そこでのご意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

関西学院中学部は学校評価を通じて自らその課題を探り、その課題に向き合って改善することによって、より内容のある教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存です。

2014年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを、以下に掲載いたします。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくご願いたします。

2015年3月27日  
関西学院中学部  
部長 安田栄三

## 学校評価シート

### 【教育課程・学習指導】

#### 現状の説明

2011年から段階的に変更してきた教育課程が最終形(必修授業週5日制、34時間)となって2年目となった。本年度は、水曜日を7時間授業、土曜日を3時間授業とする時程変更のみを行った。また、英語の分割授業もより拡充した形で時数を振り当てた。

1学年4クラスの際は、同一科目は学年で各科目単独担当であったが、クラス数増に伴い、複数人で担当する科目も増え、担当者間の授業打ち合わせにより結果的に内容の精査が進んだ。その反面、進度調整等周辺的事項が枷となる場面も増えた。

補習に関しては、数学、英語で引き続き実施しているが、学力格差が次第に大きくなる中、財政的・人的制約がほとんど解決されないままである。

また、高等部・他高校への進学情報が少ないとの評価を受け、従来は3年生にのみ実施していた高等部教員(主として高等部長・副部長)からの説明を2年生に対して実施するようにした。

#### 評価・分析(アンケート結果を含む)

学校全般に関しての満足度は従来通り、生徒・保護者ともに高い。また教育課程の内容・教授法共に高い評価を得ているし、教員へのアンケートからも教育内容の精査、教授法の改善への姿勢がうかがえる。自分の学力が向上していることの実感をもっていない生徒の割合がやや減少しているのは、学力推移調査・GTEC等、本年で3年生が全学年を通じて経験していることによるものと思われる。

また、高校進学情報が少ないとの評価が数年来50%以上である。早急に解決が求められている問題である。

#### 改善の具体的方策

基礎学力の定着、発展的内容の充実の双方を実現するため、補習など学習に躓きのある生徒への対策だけでなく、高い学力を持ち、発展的内容への興味・関心がある生徒の力も伸ばす必要がある。そのためにも、分割授業などを有効に活用していく。

進路に関しては、高等部情報を中心として、生徒・保護者へのより積極的な進路情報の提供を行っていく。また的確な進路指導が確立できるよう、各教員の十分な知識を養っていく。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 従来とは違い生徒の学力格差が大きくなる中、基礎学力の定着と発展内容の充実の両面に対応するために、補習や分割授業の実施などの取り組みが実施されている点は評価でき、今後一層の充実が望まれます。しかし多忙化する学校環境にあって、現在の資源でこれらの問題に対応するには限界もあるため、この点に関しては何らかの人的・財政的な支援が必要であると考えます。また従来同様、生徒、保護者ともに学校への満足度、教育課程やその内容に関する評価が高い点は高く評価できます。改善点として、これは中学部だけの問題ではありませんが、教育目標や教育内容等に関して高等部との連携を深めるとともに、他の上級学校への進路の問題を含めた生徒や保護者への情報提供を一層充実させることが望まれます。
- 男女共学が3年を経て卒業生を送り出すこととなりました。大きな変革に合わせ、新しい教育課程実施が着実な前進をもたらせています。授業の質向上は命題です。初・中・高連携をより確かにするため、より密なる現場間同志の交流が望まれます。
- 男女共学化が完成年度を迎え、学年ごとの違いや方式が統一されました。これからは創造期から充実期へと変わっていかれることと存じます。男女共学に加えて4クラスから6クラスへ学年のクラス数が増加したことによる影響は、授業進捗のみならず各種行事にも大きな変革を余儀なくされたと考えられます。各学期ごとの曜日数等を考慮した行事計画の作成、授業スケジュールの調整が必要であると思います。「高等部の進学情報が少ない」との評価については今後一層中・高の連携を図り、情報発信の機会を増やしていかねばなりません。高等部のオープンハイスクールに中学部生も参加する等、考慮していく必要があります。
- 教育課程全般については、生徒・保護者ともに満足度が高いことは大変評価できます。しかしながら、生徒の自分の力が伸びているかとの問いに対して、あまりそう思わない、まったくそう思わない、の割合が30.8%と高いです。そのための分割授業・補習などの工夫をすることが期待されます。  
高等部との連携を含め、高等部情報の生徒・保護者へのより積極的な提供を行っていくことが求められます。

2014年度学校評価

## 学校評価シート

### 【生徒指導】

#### 現状の説明

挨拶、時間厳守、身だしなみ等の基本的社会マナーについては、重点的に指導している。美化については、風紀美化委員会を中心に、当番制によりホームルーム教室とその周辺を日々清掃し、3学期末には大掃除を実施している。また、「地域奉仕活動」として登下校路の清掃活動を定期的に行っている。昨年度よりポスター委員会を発足させ、校内に美化意識向上のための具体的な呼びかけを掲示している。また、今年度より代議員会の活性化に重点を置き、生徒会活動およびHR活動を中心に自主自律精神の育成を目指している。生徒の問題行動に対しては、「迅速・適切・誠実」を念頭におき、当該学年団と生徒指導部が密に連携しながら対応している。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

教員のアンケートで肯定的回答がやや低く課題となっていた「整理整頓や環境美化に努めさせている」の項目では、今年度も肯定的回答が77.5%と昨年から8.6ポイント上がり、3年前の61.5%から大幅に改善が見られた。これは、委員会活動を中心に取り組みを進めた成果だと考えられる。ただ、教室の美化意識の低さについては継続して教員全体で取り組みを強化すべき課題であることに変わりはない。また委員会活動や代議員会の充実とともに、自主自律の精神の育成に関しても生徒と保護者ともに肯定的回答のポイントが年々上がってきている。

基本的社会マナーについて、教員・生徒・保護者ともに肯定的回答の割合が高い。それに対し、「生徒の問題行動などについて適切に対応している」の項目で保護者の肯定的回答のポイントが若干下がっている。特に3年女子の保護者は62.9%と低い。これは共学3年目になり、初めての中3という年齢の女子生徒への対応に課題があることの表れではないかと思われる。また、教員のアンケートでは「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある」の項目で肯定的回答が昨年、今年と連続で低下している。クラス数の増加に伴い教員数が増えたことと会議日が隔週になったことでコミュニケーションが難しくなったことが原因ではないか。生徒の問題行動へは、当該学年団と生徒指導部を中心に教員同士および生徒・保護者との緊密なコミュニケーションを図ってきたつもりであるが、その対応と教員間の連携についてはさらに丁寧で適切な対応が求められていると考えられる。

## 改善の具体的方策

美化意識については、風紀美化委員会およびポスター委員会の活動に少しずつ成果が見られる。今後さらに今の活動を充実させていく。また、代議員会および生徒会役員会の活動の更なる充実と活性化を図り、生徒の自主性を育てていく。

問題行動への対応については、各学年団と指導事例を検証し、改善に努める。さらに教員間の連携を密にするために、学年指導部が中心にミーティングの頻度を増やし、教員間の情報共有を図る。

## 第三者評価／学校関係者評価

- アンケートの集計結果から、「整理整頓・環境美化」に関する指導については改善の跡が見受けられ評価できます。気になるところは、「生徒の問題行動などについて適切に対応している」という項目での中3女子の保護者の肯定的評価が低い点と、「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある」という項目での教員の肯定的回答が2年連続で下がっているという点です。生徒の問題行動への対応に関しては、教員間で指導方針にブレがないことが基本となります。そのためにも教員間での情報交換、情報共有、共通理解が欠かせません。〈改善の具体的方策〉に書かれているように、教員間での共通理解のための機会を増やし、その内容を一層充実させることが期待されます。
- 男女共学から3年。分かりやすい具体目標が実践を深めています。新しい自治組織に、共学化の特性が生かされつつあります。地域社会の声が、生徒の行動指標に反映する地域とのよき関係性が求められています。
- 環境美化についての改善が見られたことは大きく評価できます。地域の清掃奉仕活動を定期的に行っていることも大変素晴らしいことです。このことを普段の教室美化にも活かして行ってほしいと思います。生徒指導に対する保護者の批判は、これまでの男子のみの世界から男女になったことで、より説明責任が増えたことを認識する必要があります。問題生徒に対する指導のみならず、被害者生徒に対するケアや保護者への説明を、これからも地道に行ってください。
- 挨拶など基本的社会マナーについては、重点的な指導で、生徒も基本的社会マナーを身につけていると思っている点は、評価できます。生徒の問題行動への対応については、改善の具体的方策で示された努力を続けていかれることが期待されます。

2014 年度学校評価

## 学校評価シート

### 【保健管理】

#### 現状の説明

生徒たちが健康で安全な生活を送ることができるように健康診断を行い、事後指導・管理を行っている。今年度は特に心臓検診の事後措置に力を入れ、保護者が過大な不安を抱くことなく受診できるよう「心電図所見の説明」を学校医指導のもと作成し、事後措置に生かした。

また、日常の疾病や怪我については迅速に、適切に処置が行えるよう努め、病状の報告や対応については保護者と連絡、相談しながら行うよう心掛けている。

男女共学化完成の年を迎え、保健室の中学部生来室者数は共学化前と比較し 3.9 倍となった。特に心の問題を体の症状として表す生徒、人間関係の辛さから一時避難してくる生徒たちの来室が増えており、話を聴き、相談に応じたり、カウンセラーにつなげたりと個々の健康課題をサポートするよう努めている。

学校生活において不適応を抱える生徒も増えている。カウンセラーによる相談活動の中から、高機能自閉症スペクトラム症の課題だけではなく、様々な養育環境が影響しているケースも見受けられるようになった。生徒一人ひとりを理解し、支援していくことは簡単にできることではないが、保護者、担任、カウンセラー、養護教諭が情報を共有しながら、生徒の支援に取り組んでいる。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

昨年度と同様、健康診断・事後措置の実施、怪我、急病発生時の迅速な対応については教員、保護者、生徒とも高い評価を得ている。

2013 年度課題であった養護教諭・カウンセラー・教員間での情報共有・連携については、「できている・どちらかといえばできている」と評価した教員の割合が 7.5% 上昇し 90.3% となった。

また、心身の健康についての相談場所については、「相談できる場がある」と答えた生徒は年々上昇しているものの (45.7%→63.8%→69.8%)、まだ 30.2% の生徒が「相談できる場がない」と回答していることは今後の課題である。

#### 改善の具体的方策

心身の健康についての相談場所については、引き続き保健だより・壁面掲示物を用いて、生徒、保護者へ発信を続けていきたい。さらに、季節に応じた疾病予防のためのアドバイスを全校生徒が集まる場で、口頭でも情報発信していき、開かれた保健室を目指し、生徒たちが相談しやすい場所となるような雰囲気作りに努めていく。

養護教諭・カウンセラー・教員間での情報交換・連携については、引き続き、教師会を用いて、学校全体に関わる必要な情報（感染症の罹患状況・事故や怪我の発生状況）、保健室からみる生徒たちの様子を伝えてい

く。

生徒個々の心の問題については、担任と密に連絡をとりながら、必要に応じて、担任・学年主任・カウンセラーとチーム会議を開催し、生徒の支援の方向性を検討し、情報共有できる場をもつ。

学校不適応生徒が増えているが、その支援については、個々の教員の経験に留まるのではなく、中学部という組織に経験が蓄積される仕組みが必要である。今後もカウンセリング委員会の場で中学部の支援体制について協議・検討していく。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 身体面での保健管理に関しては学校医指導のもと「心電図所見の説明」を作成する等、丁寧な対応がなされており評価できます。精神面での保健管理については、共学前に比べ、保健室の来室者（生徒）が約4倍にも増えたということで、大変ご苦労されている様子が窺えます。心の問題に関しては、担任、学年主任、養護教諭、カウンセラーと保護者の連携が不可欠で、情報交換、情報共有、それぞれの立場での支援のあり方の検討等、各々が一体となって取り組むことが求められます。現在もこうした態勢は整っているようですが、心の問題を抱える生徒が増加する中、更なる努力を期待します。また〈改善の具体的方策〉の最後に「学校不適応の生徒の支援については、個々の教員の経験に留まるのではなく、中学部という組織に経験が蓄積される仕組みが必要である」とありますが、まさにその通りであって、そうした仕組みのいち早い構築を期待します。
- この時期のすこやかさのバランスとりは難しいものです。昨年度の保健室担当職員の増員は、学校全体に安定をもたらせたことでしょう。今後は、さらに「受容」と「共感」に基づいた指導のもと、強く、しなやかな人づくりが望まれます。
- 保健室の来室者が、男子のみの頃と比較して約4倍に増えたことは、予想していたものの大きな変化でした。思春期を迎えた青年前期のこの年代は、体の変化とともに心の変化・葛藤も大きく、保健室・カウンセラーと教員がチームワークよく連携することは非常に大切です。また、教員がカウンセリング研修会や人権教育研修会の場に積極的に参加して、個々の資質を高めていくことも重要でしょう。このことは若手教員だけでなく、長く男子校に勤務してきたベテラン教員にも言えることです。
- 健康診断・事後措置の実施、怪我、急病発生時の迅速な対応については教員、保護者、生徒とも高い評価を得ていることは、大変評価できます。心身の健康についての相談場所については、生徒であまりそうは思わない、そうは思わない、の割合が約30%であり、改善の具体的方策で示された努力を続けていくことが望まれます。生徒の個々の心の問題については、改善の具体的方策で示された様々なことを実行していかれることが期待されます。

## 学校評価シート

### 【保護者との連携】

#### 現状の説明

P T A組織は幹事長を中心とする五役(幹事長、副幹事長、庶務、会計、会計監査)、常任幹事(各地区長)、地区幹事(クラス幹事を兼務)からなる。各地区幹事は毎年 11 月に行われる幹事選挙により選出され、新入生については 4 月の P T Aクラス集会でクラス毎に選出される。活動内容の中心は全校行事のサポートとして体育大会、文化祭での飲食物等の販売、新入生保護者を迎える各地区歓迎会の開催などである。これらの準備のために、年 5 回の常任幹事会、幹事会を開催しており、五役会も適宜開催している。

その他にも P T A聖書を学ぶ会、P T Aだよりの活動など独自の活動を展開している。

また、年 4 回開催される P T A集会(全校、学年、クラス)、担任面談やクラス、クラブ懇談会を通じて、様々な情報を交換しながら、保護者、担任、クラブ顧問との間の連携を深めている。

#### 評価・分析 (アンケート結果を含む)

学校行事などでの連携、幹事会等の会議の開催、クラス担任との面談については、保護者、教員ともに昨年同様、概ね高い評価を得ている。これは幹事会や P T A集会、クラスやクラブでの懇談会が頻繁に行われ、行事や集会を通して、互いの繋がりが保たれているためだと考えられる。全体としての数値的には昨年とほぼ同じであるが、各項目で見れば保護者の中で、「クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている」の項目で否定的な回答が若干増加しているのが懸念される。全体としての活動は概ね理解されているものの、個別の対応が従前より求められていることの表れであると思われる。

#### 改善の具体的方策

保護者との連携については、これまで通り、保護者と多くの時間を共有しながら、ともに考え、話し合える取り組みを継続して行っていく。P T A集会や担任面談、クラス・クラブ懇談会などで情報を発信すること、保護者が意見を出しやすい雰囲気を作り出し、体制を整えることが必要である。



### 第三者評価／学校関係者評価

- アンケートの集計結果から、P T Aとの協議会の開催、学校行事等での連携、クラス担任との面談に関して保護者からは概ね高い評価が示されており、保護者との連携がうまく進んでいることが窺え、大変評価できます。なお近年の保護者の変化を考えると、〈評価・分析〉の項目にも記されているように、面談の機会を増やす等、保護者への個別対応の面を強化すれば、さらに連携が深まると思われます。
- 伝統ある中学部の蓄積した保護者との「信頼の絆」は強いものです。男女共学や時代の流れがもたらす組織変革は、柔軟性を求めます。P T Aの思いを聴き協働を求める中で、「明るく開かれた」意見交流の場づくりが期待されます。
- 中学部の保護者との連携は非常に高いと評価できます。これぞ私学、また関学ならではの結びつきがあるように感じられます。この高さを活用して、進学についての情報等も積極的に伝達してはどうかと考えます。また、担任と保護者との面談の必要性については、学年団のチームワークを図り、クラスによって差がでないように配慮しながら考えていくことが大切でしょう。
- 保護者との連携については、P T Aとの情報交換、協力がよく行われていることは大変評価できます。そのような中で、改善の具体的方策として保護者が意見を出しやすい雰囲気を作り醸成し、体制を整えるとしておられることは、大変評価できます。

2014 年度学校評価

## 学校評価シート

### 【キリスト教主義教育の実践】

#### 現状の説明

キリスト教主義教育は毎朝の礼拝や聖書科授業のみならず全学的な教育プログラムとして展開している。

生徒が主体的に企画、運営する「生徒礼拝」は2013年度からは1ヶ月に2回であったものを6回開催している。そして2014年度からは毎週土曜日の礼拝を10分間から20分間に延長した上で、生徒の宗教委員による感話（奨励）を組み入れた。まだ定着するには時間がかかるであろうが、新たな礼拝形式として続けていきたいと考えている。英語部の生徒による「英語礼拝」は映像を視覚的に用いながら、数回開催された。

宗教総部 J. H. C. (ジュニア・ホーリー・クラブ) 主催による「早天礼拝」は生徒のみの運営によって毎週木曜日の朝に欠くことなく行われている。

#### 評価・分析 (アンケート結果を含む)

共学化が完成し、毎日の全校礼拝での静粛さ、讃美歌の歌声の大きさ等、中学部が大切にしている伝統を継承する困難さを覚えるが、クラス礼拝や学年礼拝と共にキリスト教主義教育の根幹である礼拝に対して、これからもますます形式だけではなく、中身を充実させていかねばならない。

「P T A 聖書を学ぶ会」の通常例会の出席者数の平均は2011年度は43名、2012年度は61名、2013年度は79名、そして2014年度は84名と徐々に増えている。特にクリスマスのような特別な行事ではなく、通常例会への出席者が定着している。保護者のキリスト教主義教育への関心の大きさを表しているといえる。

なお、アンケートの項目として「質問 15. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる」のプラス評価の回答の生徒の比率（〔 〕内は前年度数値）は、1年生 83.5 [85.9] %、2年生 71.9 [80.3] %、3年生 86.6 [70.8] %と全体的に評価は高い。これまでは高学年になるにつれて数値が減少していたが、2014年度は3年生の数値が特に高いのが目立つ。

「質問 17. 礼拝で学内外の様々な人の話を聴くことができる」のプラス評価の回答の生徒の比率は、1年生 94.0 [91.9] %、2年生 91.8 [93.8] %、3年生は 95.2 [89.9] %と全学年で評価が非常に高かったのは学院創立125周年記念の特別プログラムも行われ、その回答は生徒の実感と受け止められる。保護者対象のアンケートの「質問 19. 学校は、キリスト教主義教育を適切に行っている」は、プラス評価が 95.5 [96.6] %と高い数値を維持していることは、保護者によるキリスト教主義教育への理解の表れと受け止めることができる。一方、教員によるアンケートの「質問 26. 教員は、キリスト教主義による人間理解を基に日々の教育活動を適切に行っている」のプラス評価が 77.4 [72.4] %、「質問 28. 学校は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している」のプラス評価が 80.7 [72.4] %という数値は、いずれも前年度に比べて高

くなっている。

### 改善の具体的方策

キリスト教主義教育の根幹である礼拝において、中学部はこれまで、静粛さと大きな歌声を大切にしてきた。その伝統の継承への取り組みを充実させる。また、継続して様々な分野の講師をお招きし、礼拝の内容を工夫する。保護者からの要望に応え、PTA聖書を学ぶ会などを通して、中学部のキリスト教主義教育への理解を深める機会を持つ。

### 第三者評価／学校関係者評価

- アンケートの集計結果からも、生徒、保護者、教員にキリスト教主義教育への理解が深められていることがよく分かり評価できます。生徒に関しては、生徒を主体とした多様な礼拝が工夫・設定されており大いに評価できます。保護者に関しては、「PTA聖書を学ぶ会」の参加者（通常例会）が、2011年度（43名）にくらべ約2倍（84名）に増えていることから、キリスト教主義教育理解のための保護者への働きかけが功を奏していることが理解されます。
- 生徒のさらなる「自主」「自立」力の芽生えと広がりが感じられます。これは、教育プログラムの明確な方向性が示された成果でしょう。アンケート結果にも明るさが伴い、お互いの関係性、他者理解、行動としての現れが評価できます。
- 今、世間ではグローバル化が盛んに発せられています。しかし、その本質は、と問われると様々なことが返ってきます。よく言われることに「異文化コミュニケーション」があります。異文化を理解するのに宗教を理解する事は欠かせません。若き魂にそのことを日々の生活を通して伝えていることは、非常に大きなことだと考えられます。今年度も様々な評価観点でプラス評価が高まったことに敬意を表します。学院の一貫教育を支える中心的な柱となるキリスト教主義教育の根幹を、これからも育んでいってください。
- 生徒が礼拝での話を高く評価していることは、大変評価できます。生徒のキリスト教の理解の深まりについては、あまりそう思わない、まったくそう思わない、の割合は 21.4%で、改善のための方策が期待されます。

2014年度学校評価

## 学校評価シート

### 【特色ある教育の実践】

#### 現状の説明

共学化3年目を迎え、中学1年生から3年生まで全ての学年に男女の生徒がいるという共学本来の形での教育が展開される初年度となった。その中において「教育の根幹に『キリスト教主義・読書・英語・体育・芸術』の五本柱をおき、日々の礼拝や授業、課外活動などを通じて、特色のある教育の実践を目指す」という方向性は従前と変わらず堅持している。

学校の建学の精神である「キリスト教主義による人間教育」においては、学校生活において、単に礼拝を守り、授業を通して「聖書」を学ぶということだけでなく、学校生活の多くの場面で「祈り」、また奉仕の心を大切にす、ということを重視しながら教育を展開してきた。

また、中学部の誇る「読書」では、本を読むことにとどまらず、学習・研究の方法や技術を学ばせ、設備の整った図書館を活用して生徒の読書生活を幅広く伸長させている。

英語・体育・芸術では授業を重視することはもちろんのこと、今年度も、スピーチコンテスト、体育大会、球技大会、マラソン大会、文化祭、合唱コンクールなど、多くの行事の中で発表の機会を設けた。

また中学部はキャンプや体験学習を通じての「人間教育」にも力を入れているが、本年度は青島キャンプ（無人島でのキャンプ）に女子生徒が参加する2年目であり、修学旅行は同じく1年目ということでその成果が問われるところであったが、ともにこれまで培ってきたプログラムを基本として実施していくことで、全体的には意義のあるものとすることができた。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

今年度もすべての項目に関して概ね高い評価を得た。殆どの項目において昨年度と比べてあまり有意な差は見られないが、以下いくつかの点について触れておく。

共学化にともなう課題であったキャンプや体験学習に対する評価は、全体としては生徒・保護者ともに昨年と比して有意な変化はない。しかし、本年度内の学年比較で見ると、千刈キャンプ・青島キャンプを経験した2年生より、両キャンプに加えて修学旅行と、より多くの体験学習を経験してきた3年生の方が生徒・保護者ともにポイントが高いことは評価しうることである。

英語教育に関しては、生徒における「海外との相互交流や外国人教員を通して、異文化に興味を持った」の項目の肯定的評価が昨年の57.5%から62.8%となっており、アップ率が高い。また、学年間の比較でも2年生の53.6%に対して3年生では70.8%となっている。これは海外英語研修の復活が定着してきたことと、ATEをはじめとする英語科教員の尽力の結果だと考えられる。

同じく昨年比でアップ率の高かったものに、「音楽・美術などの芸術活動」についての項目が挙げられる。肯定的評価は生徒で69.1%から76.0%へ、

保護者では 77.0%から 80.6%となっている。これは普段の音楽・美術の教育活動に加えて、本年度は 3 学年そろって男女混声の合唱コンクールを開催できたことにその一因があるのではないかと考えられる。

### 改善の具体的方策

3 年生の回答から、海外英語研修は評価を得つつあることがわかる。今後も研修地やプログラムの充実をさらに図る。

体験学習については、本年度同様、これまでの根幹を堅持しつつも、細かい部分での男女共学によりふさわしいプログラムや指導方法などを模索していく。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 礼拝、読書、スピーチコンテスト、青島キャンプ等、中学部は従来から特色のある教育実践に取り組んでおり、この点は大いに評価できます。また、懸案であった海外英語研修が復活したことは、高等部の S G H、大学の S G U 採択との関連からも評価される事柄です。他校に類を見ない「読書」については、単に本を読むことにとどまらず、読書から得た知識、ものの見方や考え方、また感じたもの等をどのように生徒の「生きる力」につなげていくかという観点から見直すことで、更なる発展が期待されます。
- 長年にわたり、積み重ねてきた教育の五本柱の位置づけが魅力的です。普遍性が感じられるバランスのよさが、多くの支持を得ているのでしょう。保護者が子どもを中学部に通わせたい思いにも通じます。万遍なく本質に触れる機会を数多く持たせ、感性豊かな人づくりにつなげたいものです。
- 伝統の五本柱が、男女共学となった現在も大切にされ、教育の基盤とされていることが高い評価となって表れていると思われます。校外での活動は、男女共学になったことから様々な配慮が増えたと考えられます。従来の成功だけに終わらず、新しい取り組みにも挑戦できる素地ができたと感じます。改善の具体的方策にも記述されている通り、男女共学によりふさわしいプログラムの創造も目指して行ってください。
- 生徒と保護者の体験学習の評価は高く、大変評価できます。また、読書を通じた教育についても、生徒と保護者が高く評価していることは、大変評価できます。英語教育については、読む・書く・聞く・話す、英語を通じた世界の人々との交流の生徒のあまりそう思わない、まったくそう思わない、の割合が 20%以上であり、海外との相互交流についてもその割合は 37.2%であり、保護者のこれらに関連した質問の結果も同様であり、改善の具体的方策が期待されます。

2014 年度学校評価

2014年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

大項目	小項目	目標	アンケート		
			教職員用	保護者用	生徒用
中学部全般				1. 生徒は楽しんで学校に行っている。	1. 学校に行くのが楽しい。
				2. 中学部の教育に満足している。	2. 中学部の教育に満足している。
教育課程・学習指導	教育課程についての教員間の共通理解と連携	教員による教育課程の全体像の理解	1. 教員は、教育課程の全体を理解している。	3. 学校が提供しているカリキュラムは適切である。	
	児童生徒の学力・体力の的確な把握	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握	2. 教員は、外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている。		
		教員による学力や体力評価についての理解向上		4. 学校は、生徒の学力や体力を適正に評価している。	3. 学校は、自分の学力や体力を正しくつかんでくれている。
	各教科の特性に応じた授業の工夫	教員自身による担当教科の特性の理解	3. 教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。		
		より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究	4. 教員は、質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている。		4. 自分の学力は伸びていると感じる。
		授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫	5. 教員は、授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている。		5. 授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。
	個々のニーズや興味関心に応じた授業展開	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開	6. 教員は、知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている。		
		学齢に応じた選択授業の展開		3. 学校が提供しているカリキュラムは適切である。	
		補習など特別な学習機会の提供	7. 学校は、必要に応じて補習など特別な学習機会を提供している。	5. 学校は、補習など特別な学習機会を適切に提供している。	6. 勉強でつまずいた時、補習などの機会がある。
	課外活動の充実	中学部と高等部との連携	8. 中学部は、高等部と適切に連携を図っている。	6. 学校は、関西学院高等部に関する情報を適切に提供している。	
		児童会・生徒会などの自治活動の充実	9. 学校は、生徒会などの自治活動が生徒によって盛んに行われるように配慮している。	7. 学校は、学級活動やクラブ活動を通じて生徒の自主自律の精神を育成している。	7. 自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。
		クラブ活動など課外活動の充実	10. 中学部は、クラブ活動など課外活動が充実している。	8. 学校は、充実した課外活動(クラブ活動など)を提供している。	8. 課外活動(クラブ活動など)が充実している。
		課外活動が正課(学習)を妨げていないことの徹底	11. 学校は、生徒が学業と課外活動を両立できるように配慮している。	9. 学校は、生徒が学業とクラブ活動を両立できるような環境の整備に努めている。	9. 学業とクラブ活動が両立できる環境にある。

2014年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

大項目	小項目	目標	アンケート		
			教職員用	保護者用	生徒用
生徒指導	基本的生活習慣の確立	挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーの指導	12. 学校は、挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーを生徒に身につけさせている。	10. 学校は、生徒に基本的社会マナー(挨拶、時間厳守、整理整頓、環境美化など)を身につけさせている。	10. 学校は、あいさつ、時間厳守、整理整頓、環境美化などの基本的社会マナーを身につけさせている。
		整理整頓や環境美化の指導	13. 学校は、生徒に整理整頓や環境美化に努めさせている。		
	自主自律の精神の育成	HR(学級活動)における自主自律の精神の育成	14. クラス担任は、学級活動において生徒の自主自律の精神の育成に努めている。	11. 学校は、生徒の自主自律の精神を育成している。	7. 自分たちの手でホームルーム、生徒会などの自治活動を行っている。
		学校行事における班活動などを通じた自主自律の精神の育成			
	問題行動への対応	児童生徒の問題への対応についての教員間での共通理解	15. 生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある。	12. 学校は、生徒の問題行動などについて適切に対応している。	11. 学校は、自分たちの行動に問題があれば、適切に対応している。
		児童生徒の問題行動の早期発見			
問題行動に対しての適切な指導・訓戒		16. 教員は、生徒の問題行動に対して適切な指導・訓戒・事後ケアを行っている。			
保健管理	心身の健康管理	健康診断の定期的な実施と事後措置	17. 学校は、健康診断を定期的実施し、事後措置を適切に行っている。	13. 学校は、生徒の健康に関する情報を把握し、適切に対応している。	12. 学校は、自分の健康に関する情報を適切につかんでくれている。
		健康状態の把握	18. 学校は、養護教諭・カウンセラー・教員間で情報交換や連携を適切に図り、生徒の健康状態の把握に努めている。		
		健康相談	19. 学校は、生徒の心身の健康に関して、生徒や保護者が相談できる場を設けている。		13. 学校には心や体の健康について相談する場がある。
		感染症の予防		15. 学校は、生徒が健康で安全な学校生活を送れるよう感染症の予防に配慮している。	
	怪我・急病発生時の対応	怪我・急病発生時の迅速で適切な対応	20. 学校は、怪我及び急病発生時に迅速で適切な対応をしている。	14. 学校は、怪我及び急病発生時に迅速で適切な対応をしている。	14. 学校は、怪我や体調不良の時に素早く適切な対応をしてくれる。

2014年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

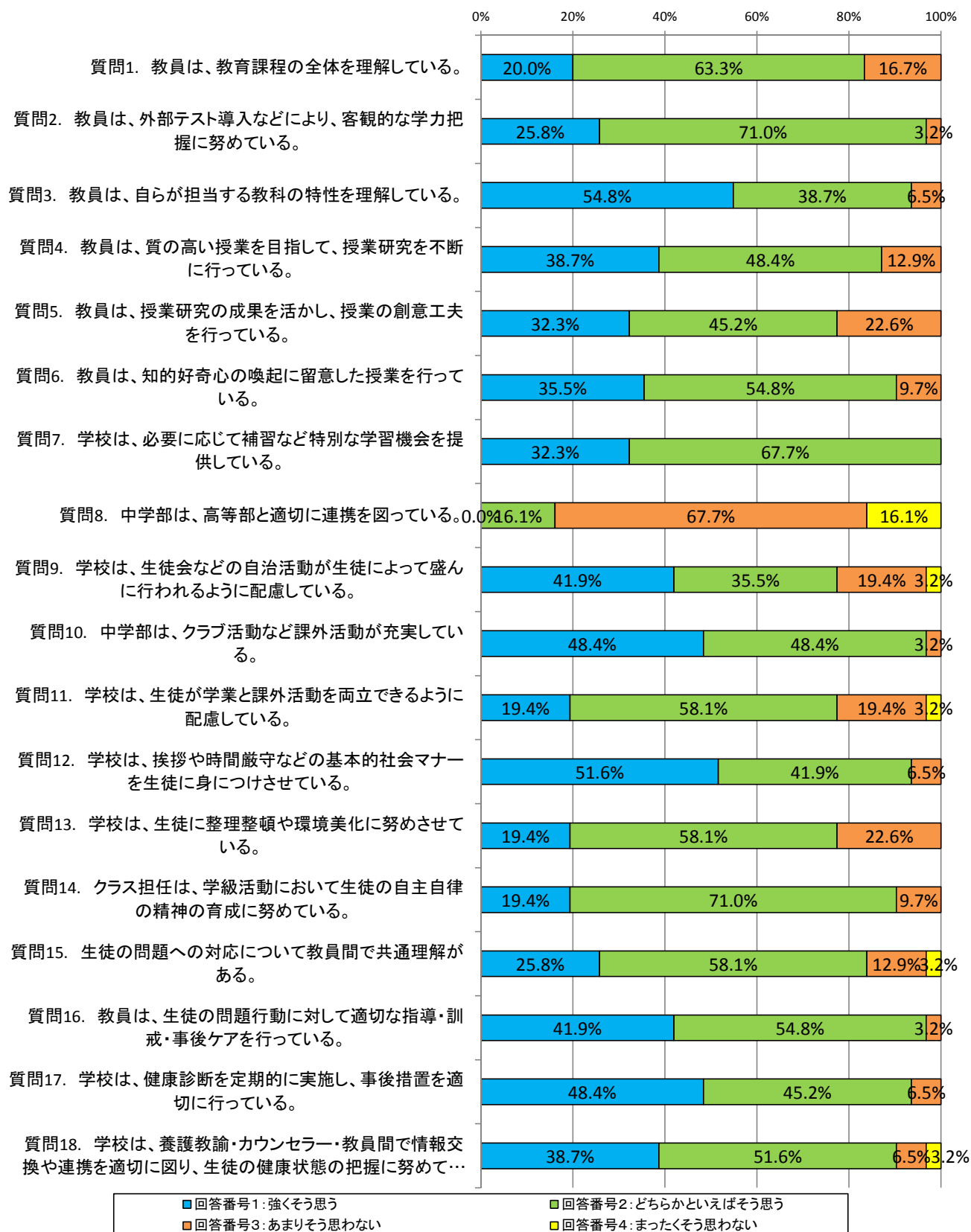
大項目	小項目	目標	アンケート			
			教職員用	保護者用	生徒用	
保護者との連携	学校運営についての保護者（PTA）との協力状況	PTAと協力した学校行事の運営	21. 学校は、行事などの際に、適宜PTAと協力してこれを実施している。	16. 学校は、行事などの際に、適宜PTAと協力してこれを実施している。		
		教育内容に関する保護者との意見交換	22. 学校は、教育内容に関して保護者との意見交換を行っている。			
	保護者との懇談の実施やPTAとの協議会の運営状況	PTA幹事会等の適切な開催		17. 学校は、PTA幹事会等、PTAとの協議会を適切に開催している。		
		クラス担任と保護者との面談の実施	23. 学校は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。	18. 学校は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。		
		クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施	24. 学校は、クラス・クラブ等の保護者との懇談を必要に応じて適切に行っている。			
キリスト教主義教育の実践	キリスト教主義教育の理念の共有	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有	25. 教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。		15. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。	
		キリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動	26. 教員は、キリスト教主義による人間理解を基に日々の教育活動を適切に行っている。			
	キリスト教主義教育の推進	学校の重要な柱としての礼拝の遵守	27. 学校は、礼拝を重要な柱として守っている。		19. 学校は、キリスト教主義教育を適切に行っている。	15. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。
		生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施	28. 学校は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している。			16. キリスト教に関する理解が深まっている。
		生徒に対する教会出席の奨励	29. 学校は、生徒に教会出席を奨励している。			
	キリスト教関係諸団体との連携	教会などキリスト教関係諸団体からの礼拝奨励者の招聘				17. 礼拝では学内外の様々な人の話を聴くことができる。



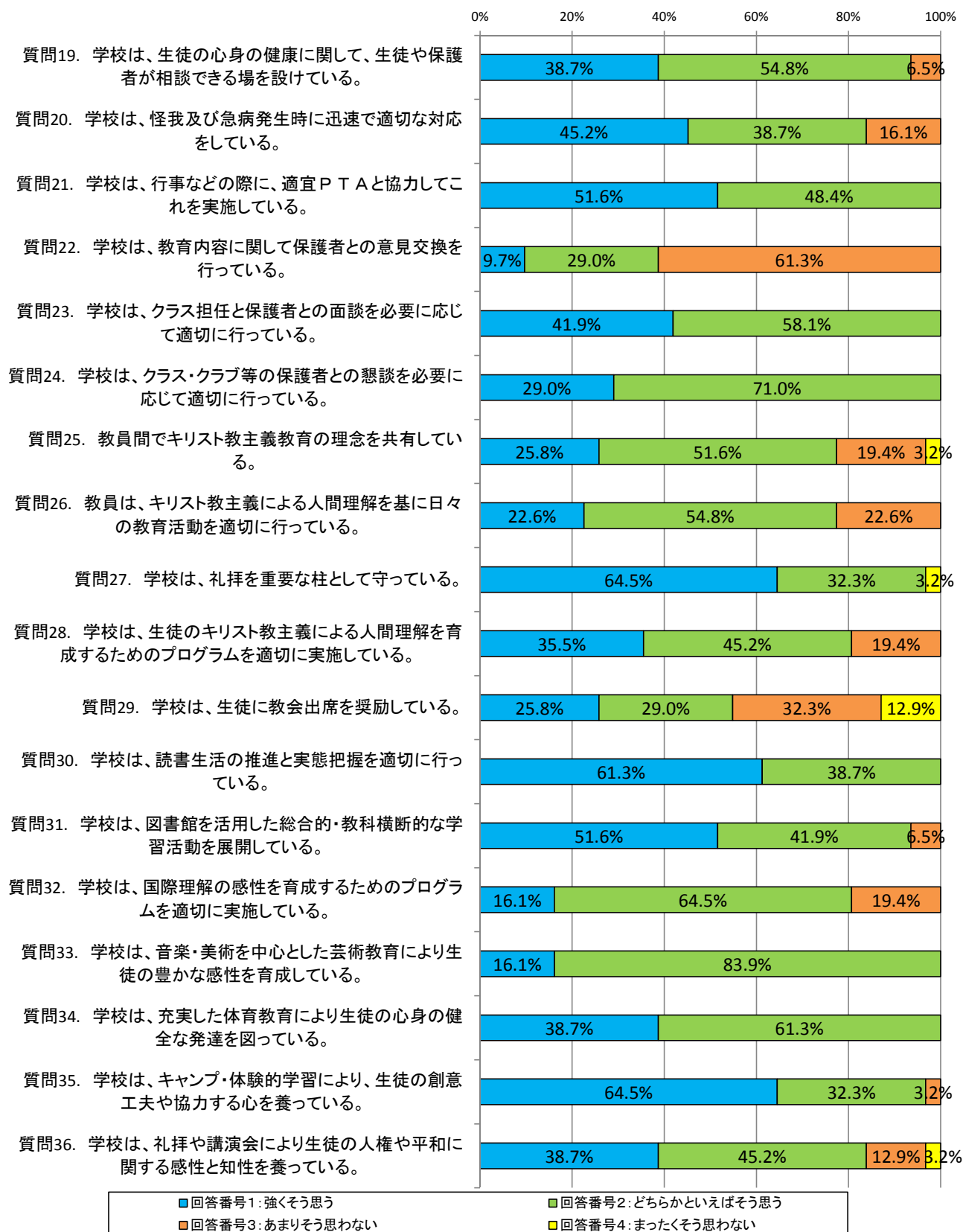
2014年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

大項目	小項目	目標	アンケート		
			教職員用	保護者用	生徒用
特色ある教育の 実践	読書・図書館教育	読書生活の推進と実態把握	30. 学校は、読書生活の推進と実態把握を適切に行っている。	20. 学校は、生徒に読書生活を推進している。	18. 学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している。
		図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開	31. 学校は、図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動を展開している。	21. 学校は、図書館を活用した総合的な学習やプログラムを展開している。	
		読書・図書館教育に特化した学校行事の実施			19. 読書に関するプログラムが充実している。
	英語・国際理解教育	英語教育を通しての、世界への視野の拡大		22. 学校は、生徒が英語に触れる機会を増やし、英語が好きになる学習活動を展開している。	20. 将来、英語を使って世界の人々と交流してみたいと思う。
		英語教育を通しての、ことばへの意識の向上と言語運用能力の育成		23. 学校は、英語の文法学習に併せ、読む・書く・聞く・話す、の4技能を高める学習活動を展開している。	21. 英単語や英文法が身につく、英語を読む・書く・聞く・話す、の様々な活動ができている。
		国際理解の感性育成のためのプログラムの実施	32. 学校は、国際理解の感性を育成するためのプログラムを適切に実施している。	24. 学校は、海外との相互交流や外国人教員を通して、生徒の国際理解の育成に努めている。	22. 海外との相互交流や外国人教員を通して、異文化に興味を持った。
	芸術教育	音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の豊かな感性の育成	33. 学校は、音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の豊かな感性を育成している。	25. 学校は、音楽・美術を中心とした芸術教育により、生徒の感性と表現力を育成している。	23. 音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている。
		音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の自己表現能力の育成			
	体育教育	充実した体育教育による児童生徒の心身の健全な発達	34. 学校は、充実した体育教育により生徒の心身の健全な発達を図っている。	26. 学校は、体育教育などにより生徒の心身の健全な発達を促している。	24. 体育の授業などにより心身が鍛えられている。
	キャンプ・体験的学習	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施	35. 学校は、キャンプ・体験的学習により、生徒の創意工夫や協力する心を養っている。	27. 学校は、キャンプや体験的学習を丁寧に準備・実施している。	25. キャンプや体験的学習が学校全体で丁寧に準備され実施されている。
人権・平和教育	礼拝や講演会を通じた人権や平和に関する感性と知性の涵養	36. 学校は、礼拝や講演会により生徒の人権や平和に関する感性と知性を養っている。	28. 学校は、人権や平和に関する生徒の感性と知性を育成している。	26. 学校生活を通じて人権や平和について学ぶことが多い。	

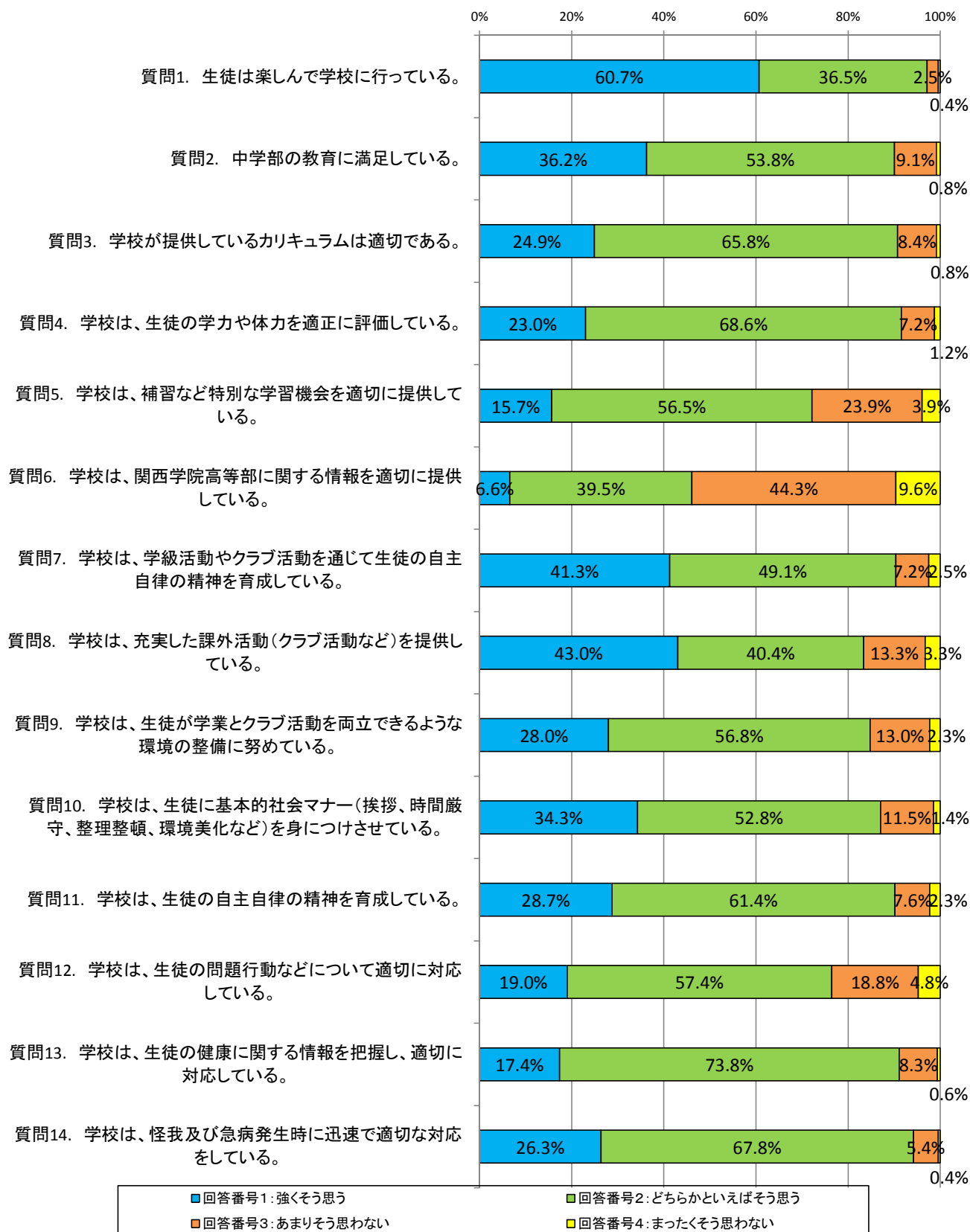
2014年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・教員 質問1～18 (回収率86.1% 31人/36人中)



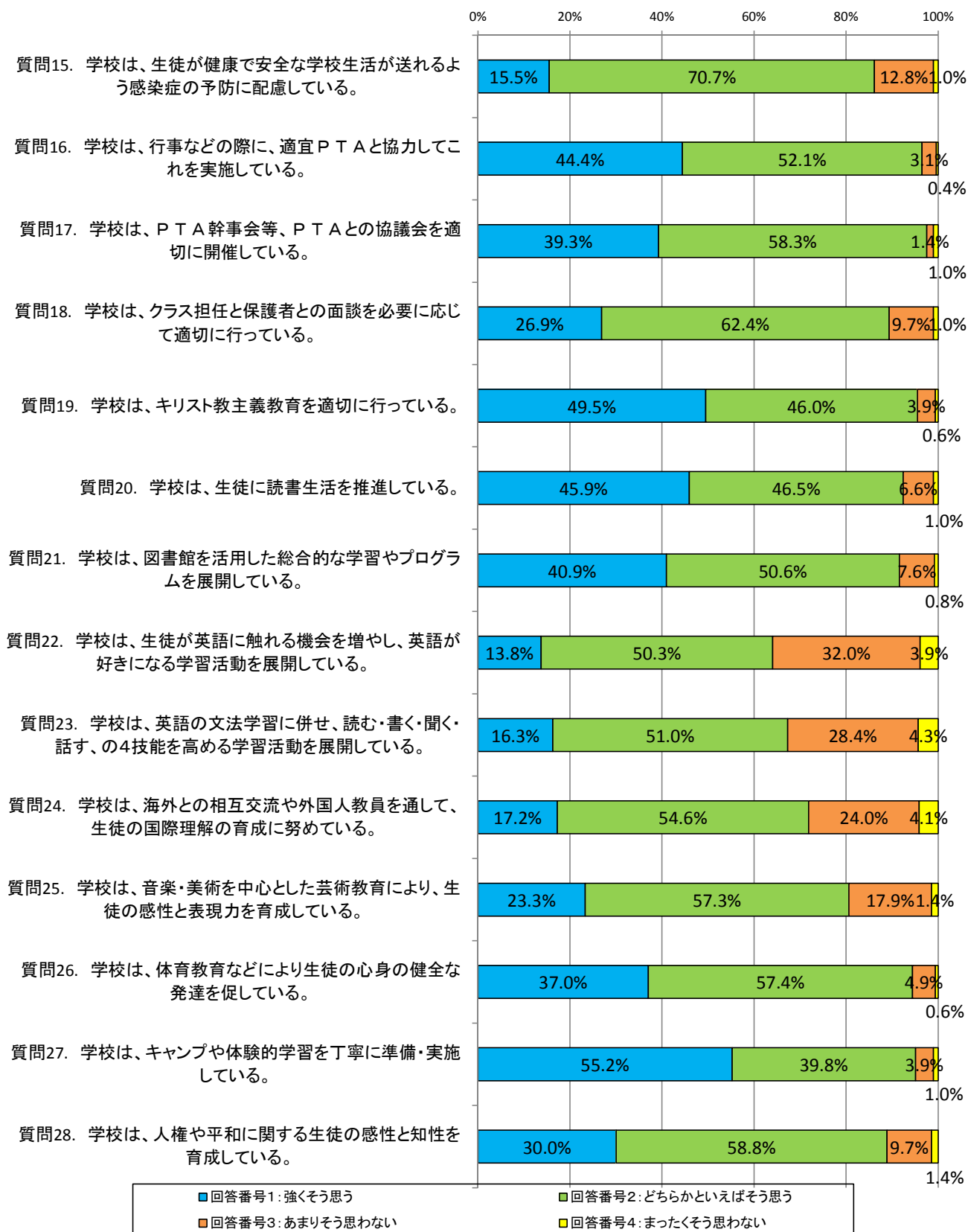
2014年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・教員 質問19～36 (回収率86.1% 31人/36人中)



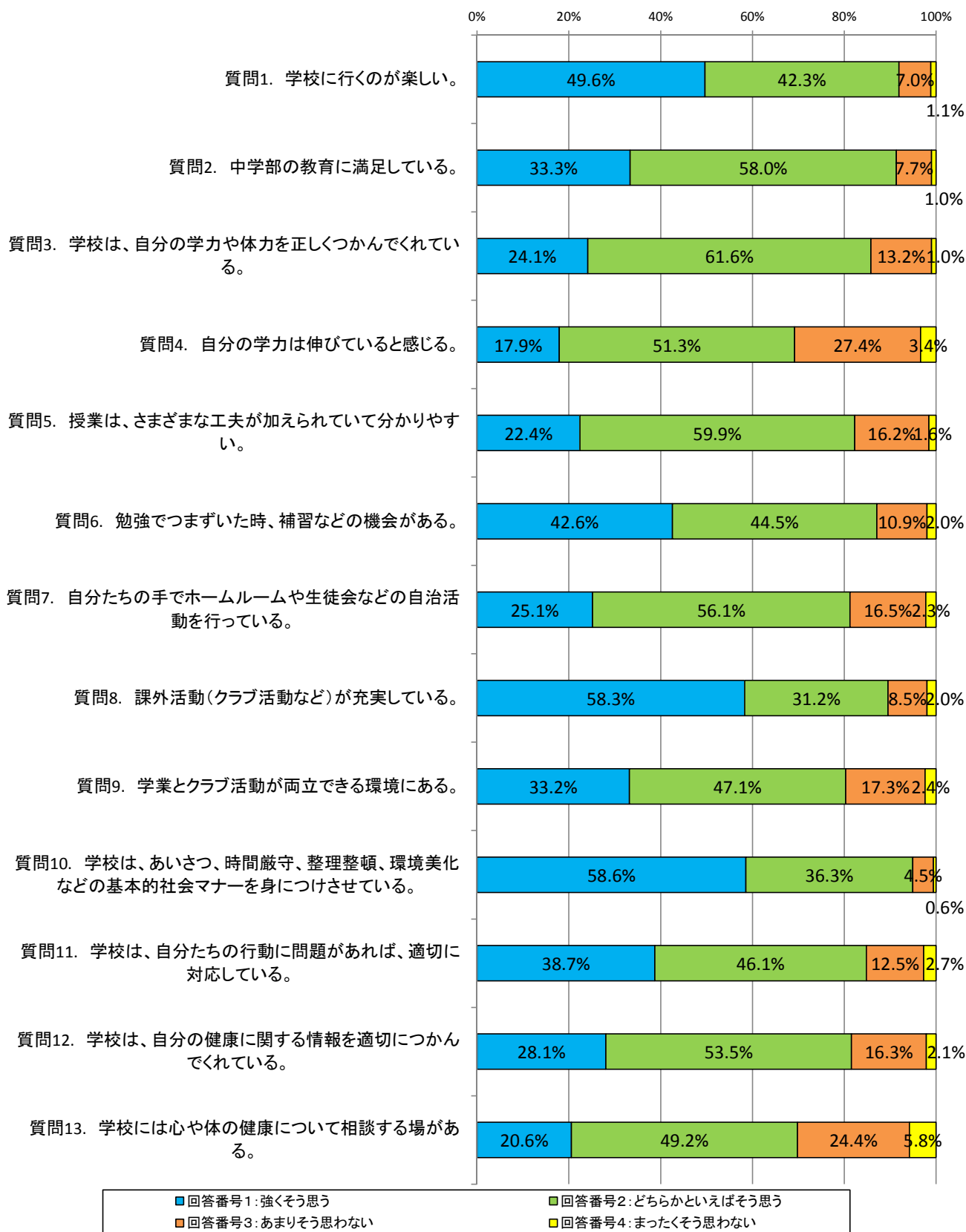
2014年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・保護者 質問1～14 (回収率68.3% 488人/715人中)



2014年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・保護者 質問15～28 (回収率68.3% 488/715)



2014年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・生徒 質問1～13 (回収率98.6% 705人/715人中)



2014年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・生徒 質問14～26 (回収率98.6% 705人/715人中)

